



2007年11月30日
民主号外
調布・狛江 版
民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3995-9988 (代表)
http://www.dpj.or.jp

民主党東京都第22区総支部

〒182-0024
調布市布田2-30-4
電話・FAX 042-485-6687

http://www.ozakidaisuke.com
e-mail: ozaki-dai@luck.ocn.ne.jp



東京都議会議員 民主党第22区総支部幹事長

尾崎 大介

おざき だいすけ

33才

都議会レポート vol.14

東京都所管の未利用地の有効活用を!

やっと秋らしくなってきましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。「逆転の夏」と銘打った参議院議員選挙が終わり、国政においては安倍前首相の突然の辞任劇から福田政権が誕生しましたが、政治空白は避けられない状況の中で、一日も早い政権交代が必要だと感じています。

2大政党政治の発祥地であるイギリスでは、サッチャー、メージャー首相と保守政権が続いた後に、「日本のような政治体制になってはならない」という事が与党から出て、ブレアの労働党政権が誕生しました。自浄作用の働く議会が存在する国は、経済にも国民にも活気が出てきます。仮に民主党が政権をとり、長・中期政権になった場合、権力腐敗の構造を避けるべく新たな政権交代が求められます。都政においても同じで、本来地方議会は二元代表制でありますから、東京都という自治体を、そして知事をチェックしていかなければなりません。チェックをするというのは、街場の都民の声をいかに都政に反映させていくかという事でもあります。

その一つに都が所管する都有地が調布・狛江市内にもたくさんあります。しかし、これらの多くは道路拡張整備の一端を除けば、遊休地のような状態で放置されています。こうした土地を有効活用してほしいという声は多く聞かれる中で、先日まで所属していた財政委員会で質問をしました。今後も、都民の声を都政に反映させるべく、全力で頑張ってまいります。



質問記録抜粋

○尾崎委員 都として大規模な未利用地の活用をどのように進めていこうとしているのか。

○塚本財産運用部長 売却するだけではなく、積極的に利活用していくことを基本とし、民間の知恵や活力を取り入れた多様な手法の展開を図っていき、都が推進する施策と連動した条件を付した上で貸し付けを行うなどの取り組みを実施してまいります。

○尾崎委員 私の地元の調布市にある調布基地跡地の利活用について。

2013年の東京国体の開催で、味の素スタジアムで開会式などを実施するいくにあたり、この調布基地跡地を有効に活用をしていくべきであると考えます。

○塚本財産運用部長 今後も、庁内関係局と連携し、地元の市とも十分に協議しながら、進めてまいります。

環境世紀における 多摩地域の森林政策の推進を!

21世紀は環境の世紀といわれる中で、地球環境問題が大きな政治経済社会問題のテーマの一つとなっています。とりわけCO2排出に関しては、2008年度より京都議定書による削減目標（1990年比6%削減）の実質的な活動が企業・自治体・住民など様々なセクターに求められる年となります。

私も多摩地域選出の都議会議員として、これまで多摩産材を活用した住宅施策の推進や花粉の少ない森づくりの一環として、針葉樹を広葉樹に植え替えていく活動などを行ってまいりました。これまで、東京都及び多摩地域自治体は、多摩地域の環境保全に関わる施策を推進してきていますが、特に前述の地球温暖化対策を念頭におけば、更なる幅広い様々な政策・施策の推進が求められます。

こうした流れの中でNPO法人日本エコクラブとも政策研究会を発足させました。第一回は「多摩地域における持続可能な森林保全活動と地域産業の育成について」というテーマで研究会を行いました。

「地球温暖化問題」に関してカーボンニュートラルという見地から森林の再認識が高まっていますが、東京都においても森林に対する理念構築等は評価できるものの、具体的な施策等はまだ試行錯誤しているのが現状です。確かに森林をめぐる課題は歴史的（農地解放は行われたが山林はそのまま）、社会的（森林機能の多様性）な背景からも、森林の重要性は識されているものの、縦割り行政の弊害からか、ランドデザインが描ききれいていません。今後は、地球温暖化問題と言う時代のトレンドを背景に、行政・民間・NPO等が一体となって大きな運動として取り組んでいくことが肝要です。



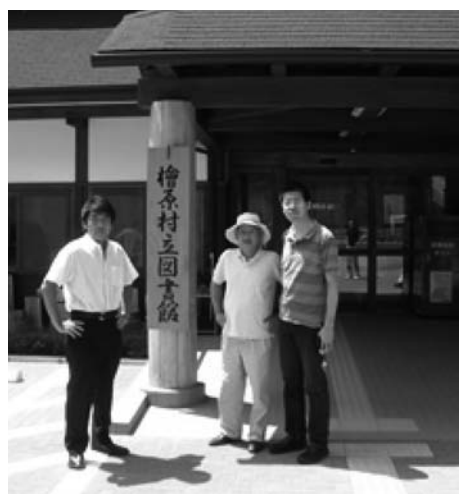
古民家でNPO法人エコクラブとの協議



中央区が推進している保全活動の一環である「中央区の森」を視察



檜原村役場で坂本副村長らと懇談



檜原村図書館を視察

都内の障がい者福祉施設を視察



荒川区の知的障がい者のグループホームに行ってきた。そこの責任者である川島さんは、山花総支部長の友人で、私も以前からこうしたグループホームの現場を見てみたかったので、山花さんに頼んで2人で見てきたものです。

今知的障がい者はたくさんの課題を抱えています。いわゆる養護学校に通っているうちは、先生もいるし、親御さんもいる訳ですが、そうでない境遇の人もいます。川島さんに聞いたのですが、子供が生まれて障がい者であると分かると育児を放棄し、施設にそのまま預けてしまう方もいるそうです。また、社会に出てからどうやって働いていけばいいのか、障がい者年金を貰っているといってもそれだけで生活をして行ける筈がありません。成人してからはある程度、自立をしていかなければならないのですが、障がい者の就労支援は必ずしも十分とはいえないのが現状です。

法整備としては「障がい者の雇用の促進等に関する法律」というものがあり、全ての民間企業は雇っている常用労働者の1.8%に相当する人数の障がい者を雇用する義務を負うと謳ってありますが、雇用調整金や助成金を悪用する企業も少なくないと聞きます。例えば、障がい者が学校を卒業し、社会にいきなり出て健常者と一緒に働くと、パニックを起こしてしまう例もあります。やはり私は各自治体において、統合教育という、学校に通っている時分から健常者と共に学校生活を送っていくやり方も積極的に検討されるべきと考えます。

昨年10月から障がい者自立支援法が本格施行となり、障がい者を取り巻く環境はかえって厳しくなる事が懸念されます。そうした中で、千葉県が「障がいのない人もある人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を成立させたのは記憶に新しいところです。

障がい者は一定の割合でいつの時代も生まれます。その時にたまたま障がい者に生まれた人達と共生をしていく社会をつくって行かなければ、日本のモラルも何もあったものではありません。アメリカでは、先に述べた、「障がい者の雇用の促進等に関する法律」のようなものがなくとも、自主的に企業が障がい者を雇用し、共生の社会を構築しています。

日本では「障がい者差別禁止法」も未だ整備されておらず、国の動きは緩慢です。もちろん今後、国に対して働きかけをしていく事は重要ですが、やはり首都東京として、国に先駆けた動きもしていかなければならない責任もあるはずで。

生まれた子供が障がい者であるからといって、育児放棄をしてしまうようなモラルがつくられてしまえば、いい社会などのぞむべくもありません。この日説明をして案内をしてくれた川島さんは非常に熱意ある方で、私も現場での話を聞いた事は非常に勉強にもなりまして、今後の活動にも活かしていきたいと思います。



山花総支部長とグループホームの方達と共に



正木よし市議(写真左)と共に取り組んできました

和泉多摩川駅前の 交差点改良を推進!

かねてから懸案となっている、和泉多摩川駅前の交差点改良が進んでいます。パークハイムの方々や近隣住民の方々より相談を受け、信号機の設置や横断歩道の設置、違法駐車解消へと、警視庁や都の建設局とも断続的に協議を進め、まだ第一段階ではありますが、整備が進んできました。今後は道路管理者である狛江市とも協議を進めながら、安全な交差点整備を推進してまいります。

活動報告

調布市防災訓練に参加



都立調布養護学校運動会



狛江市 民謡連盟大会



狛江市空手道競技大会であいさつ



お知らせ

都政報告会&望年会

とき 2007年11月29日(木)

受付 18:00～

場所 文化会館たづくり 12階 大会議場

開始 18:30～

会費 2,000円

尾崎大介プロフィール

- 1974年2月15日生まれ
- 日本大学農獣医学部卒業
- 一般企業入社後、サラリーマンを経て、第42回総選挙の山花郁夫選挙に関わり、公設第一秘書となる。
- NPO法人日本エコクラブ(環境)の設立に参画

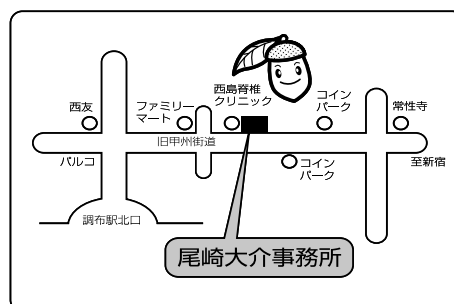
(現在)

- NPO法人日本エコクラブ 参与
- 調布市飛田給に在住
- 2005年7月 第17期東京都議会議員選挙初当選
- 民主党調布市支部支部長
- 民主党東京都第22区総支部幹事長
- 都議会民主党総務副会長
- 総務委員会委員
- 東京都住宅供給公社評議員
- 北多摩南部地域保健医療協議会特別委員
- FC東京をサポートする議員連盟委員
- 東京都議会オリンピック招致推進議員連盟委員
- 東京都議会花粉症対策推進議員連盟委員
- 多摩国体推進議員連盟役員

(都議会)

尾崎大介事務所のご案内

都政に対するご意見・ご要望は
ぜひ尾崎大介までお寄せ下さい。



〒182-0024
東京都調布市布田2-30-4
TEL&FAX 042(498)8030
Mail: ozaki-dai@luck.ocn.ne.jp
URL: http://www.ozakidaisuke.com